

議会改革フォーラム：傍聴で緊張感を 市民の注視強調—生駒

毎日新聞 2013年05月10日 地方版

(青太字は引用者によるものです。)

「議会改革フォーラム in 生駒」(政策研究ネットワーク「なら・未来」主催)が1日、生駒市のたけまるホールで開かれた。自治体議会改革フォーラム呼びかけ人代表の廣瀬克哉・法政大教授はパネル討論で、議会基本条例制定後をしっかり注視することの大切さを強調。行政と議会の生産的な良い緊張関係ができれば、「良い成果として市民に返ってくる」と述べた。

パネル討論では、議会基本条例を既に制定している奈良、天理両市と、6月議会での制定を目指す生駒市の議会代表が出席。市長らの「反問権」について廣瀬教授は「(論点・争点を明らかにするための反問権を認めた)奈良市議会方式が広がっていくのが良いのではないか」と話した。**趣旨確認に限定した生駒市の条文案に関し「やや腰が引け、議会にとってマイルド」と評した。**

廣瀬教授はパネル討論に先立つ基調講演で「議会がしっかり仕事をするための燃料は市民の注目。ネグレクト(無視)が一番残酷」と話し、本会議や委員会を多くの市民が傍聴することで、行政と議会に緊張感を持たせることの重要性も訴えた。

【熊谷仁志】